

令和6年度 臨時総会

2/21(金) 丸子文化会館セレスホールにおいて開催されました。

- ・第1号議案 令和7年度 統一基準の改訂
 - ・第2号議案 令和7年度 活動計画書
 - ・第3号議案 令和7年度 予算案
 - ・第4号議案 令和7年度 事業推進方針
 - ・第5号議案 令和7年度 広域運営業務の委託
 - ・第6号議案 令和7年度 運営委員会役員を選出組織
- 提出された議案はすべて承認されました。



令和7年度 上田市農地整備課 課長就任あいさつ

日頃より、上田市政・農政事業の推進に、ご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

この度、4月1日付で農地整備課長に就任いたしました、**小澤 章**です。

どうぞよろしくお願いいたします。

近年の農業を取り巻く情勢は、農業者の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加など、依然として厳しい状況に直面しています。

多面的機能交付金制度を利用した活動は、農業者と地域住民が一体となって地域を守っていく、地域ぐるみの共同活動です。

農村資源の維持保全や防災・減災にも繋がるほか、地域コミュニティの活性化においても重要な役割を担っています。

市といたしましても、本制度により農業・農村が有する多面的機能が将来にわたって維持・発揮するための共同活動について支援してまいります。引き続き、よろしくお願いいたします。



事務連絡

★令和7年度より 農地維持(泥上げ・草刈り等)・共同活動(軽微な補修・施設の点検等)においても、**業者へ委託する場合は届け出が必要**になります。

また、**河川からの取入口(河川に近い用水路等)作業**は事前に広域事務局へ連絡をお願いいたします。

詳しくは事務局までお問い合わせください

★4/25 広域協定監査会が行われ、全組織の総会が終了すると広域協定通常総会を**6/5(木)**に開催いたします。

★田園クラブの入力で、担当者引継ぎ等で苦戦しておられましたら事務局で入力のお手伝いをいたします。

・組織は日報・領収書を事務局へ提出➡活動記録・金銭出納簿・日当等支払い整理表・個人明細等を事務局が作成➡こちらを基に組織が構成員へお支払い・配布をしていただきます。

・ご希望がありましたら支払用の窓付き封筒の支給をします。(入力代行組織のみ)

R6.3.31現在、67組織中40組織から入力代行を承っております。お気軽にご相談ください。



上田水土里会だより

No.4

令和7年4月28日発行

上田市多面的機能広域協定運営委員会

令和6年度 事務研修会(草刈り機安全講習)開催

7/25 上田市手塚の舌喰池(したくい池)・10/3 上田市殿城岩清水地区の稲倉の棚田(いなぐらのたなだ)にて それぞれ特徴的な傾斜地で草刈機メーカーによる草刈り機の安全講習とリモコン式草刈機の実演・自走式草刈機の体験が行われました。



美化活動 10/5・12には「全国棚田(千枚田)サミット」in上田の開催に伴い、広域協定参加組織構成員の皆さま(約70名)に草刈り作業のご協力をいただきました。



令和6年度 技術研修会（目地詰め・防草シート）開催

11/6・7 上田市富士山 塩田構造改善センターにおいて県協議会による技術研修会（目地詰め補修）が行われ、講義と実演が行われました。



令和6年度 農村振興リーダー研修（関東ブロック）が開催されました

今回講師として上田市多面的機能広域協定運営委員会の依田事務局長、参加者として副会長の山本さん・滝澤さん、監事の松久さん、事務局員の土屋さん、上田市農地整備課の原田主事が参加しました。

農林水産省担当者による
多面的機能支払交付金の
最新の制度解説

活動組織の広域化のため
の座学

コミュニティの合意形成のため
の話し合いや計画づくりを
体験するワークショップ

多面活動組織のリーダーによる
活動内容報告

交付金制度に携わる行政
等の方にも役立つ内容

多面的機能支払交付金制度の活動回体のための研修です



令和6年度農村振興リーダー研修出張報告

副会長 滝澤 盛智

埼玉県浦和区埼玉会館で行われたリーダー研修会に初めて参加しました。

会館は浦和区にあるため浦和レッズの本拠地となり、泊まったホテルの入口そばには浦和レディースのラジオ局とメンバーの顔写真も展示されていました。

研修は関東農政局農村振興部多面的機能支払推進室より、交付金の利用率が高い市町村は経営耕地面積の減少率が小さい傾向にあり、交付金が役立っていることや支払い予算についての説明を受けました。

その後、我が運営委員会事務局長の依田氏より上田水土里会の生立ち、活動内容の紹介がありました。依田さんの落ち着いた説明に身内ながらさすがと思いました。

休憩の後、1回目のワークショップが始り、事前に割り振られた班に集合し、自己紹介を行いました。自己紹介の中で行政からの参加者が多いと感じました。

自己紹介の中で、茨城県で農業をされている岩瀬さんは無農薬、有機栽培で野菜2町歩、米3町歩と規模や消費者に対する考え方が違うと感じました。売り先は独自のルートだそうです。無農薬栽培について軌道に乗るまでの時間を聞くと3年はうまくいかなかったと話してくれました。

1日目の研修が終わり、親睦会では茨城県常総市の野口さんは、耕地面積が6町歩の水田を奥さんと二人で営み、人は雇えないと話されました。上田市周辺から見ると広い面積ですが、関東地方では珍しくないようでした。

最終日もワークショップメインで我がグループ名は「ネーチャー」に決まりました。面白い名前も良いと講師から言われ、「ねーちゃん」と「自然」の引っ掛けをしました。

グループ内の山梨県身延町の浅野さんは、都会からの移住で身延町へ行きNPO法人を立ち上げ、利益が出る方向で活躍されていると話していました。

世代間交流を停滞させる要因についてのワークショップでは高齢化や若者の無関心、役員の重労働等どこも同じような問題が出て機械化が進んでも難しいと感じました。

4回目のワークショップ終えて全グループの全員による発表が有り、その時には結束力も高くなっていました。最後に修了証書をいただき解散となりました。

感想として、慣れない場所での体験でしたが、若い人達も真剣にワークショップに挑み、グループ発表に向けまとめてくれたこと、農業で暮らしている人達が頑張っている事を感じ取れたのが良かったです。

農村振興リーダ研修に参加して

広域事務局 土屋 広幸

初日の講演会では、上田市多面的機能広域協定運営委員会の依田事務局長より多面組織の広域化の進め方について講義があり、受講者からは組織体制について質問があるなど広域化に対する意欲の高さが感じられた。

引き続き行われたワークショップでは5グループ（各8名）に分かれ、地域の課題、世代間交流、地域で活動してみたいこと、活動できる仕掛けについて討議が行われ、自身が参加したグループでは、人材の育成や若者の都会への流失対策が大切ではないか、子供を中心とした地域住民と農産物の収穫体験や地域で行われている行事と連携した取り組みが重要との意見があった一方で、コロナ禍の影響で行事が途絶えてしまい運営が難しくなってしまったなどの話があり地域行事の継承の難しさを感じた。

研修会終了後に開催された意見交換会では、広域化を進めたいが関係団体との調整が難しくなかなか進まない。米の価格高騰と品不足で地域の米屋がつぶれている等の様々な話を聞くことができ、どの地域においても様々な課題に苦慮している状況がうかがえた。

2日間の研修会をとおして様々な年代の方の意見を聞くことができ参考となった。今後の業務に生かしていきたいと思う。